

実施内容

UDCBKの目的である「長期的な見通しを持った都市デザインの構想」をする上で、草津市にとっての課題等をテーマとして市民や学生および事業者の皆さんが都市デザイン・まちづくりについて学び・話し合いをし、更にワークショップや社会実験を実施するなど、成果を市に提案することにより、施策への反映を目指す。

テーマ ≪都市計画部とテーマ調整済み≫

10年後、20年後を見据えた南草津駅周辺における車から人中心の利用したくなる居心地のよい都市デザイン・まちづくりを考える

草津市では南草津駅周辺における交通渋滞が近年課題となっており、市として交通環境の改善とともに、草津市総合計画に「にぎわい拠点」、都市計画マスタープランに「南部中心核」として位置付けられており、東西駅前広場や公園等のあるべき姿やポテンシャルが活かせるようウォークアブルな観点も含めて中長期対策の検討がなされているところである。こうした中長期対策を考慮した基本計画の作成が進めている中で、市民や周辺の事業者および南草津駅を利用する人々の声を反映させ、人中心のまちづくりを考える。

スケジュール

令和5年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
UDCBK		参加者募集	都市デザインマネジメントスクールの開催 ワークショップ、社会実験、専門家を招聘した勉強会等を実施 参加者の意見を集約・合意形成を図る							● 成果 報告会			
草津市 都市計画部	南草津駅周辺交通対策事業										計画 策定		

事業の目的

南草津駅周辺における交通渋滞等の課題解決に向け、都市計画部による中長期対策を考慮した基本計画の策定が進められている。UDCBKとしては、南草津駅周辺の交通対策だけでなく、公共空間の利活用等を含め、南草津駅周辺を利用者が利用しやすく居心地の良い空間となるよう、ワークショップや社会実験などを実施し産学公民の多様な意見を出し合い、合意形成を図りながら都市計画部で策定をすすめる基本計画に反映させることを目的とする。

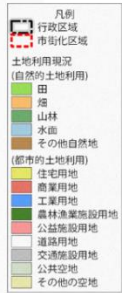
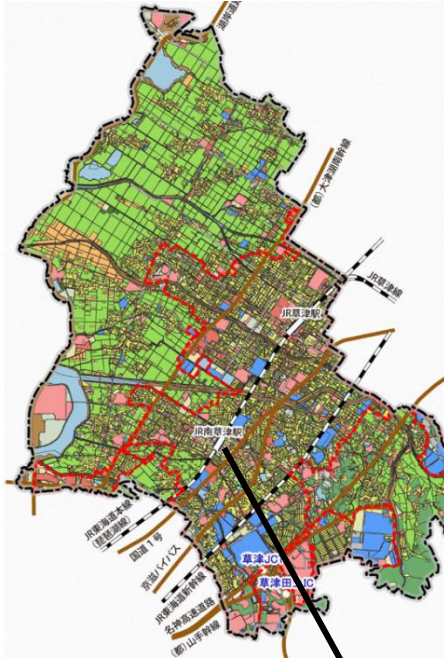
参加者

地域住民や事業者
特に南草津駅や駅周辺を利用される方（駅を利用し通勤・通学されている方や、周辺地域の住民や事業をされている方）

事業エリア

草津市立地適正化計画に定める都市機能誘導区域をおおよそのエリアとする
重点エリア① J R南草津駅東口エリア
(駅前広場およびフェリエ南草津)
重点エリア② J R南草津駅西口エリア
(駅前広場および南草津駅東山道記念公園)

事業エリア図

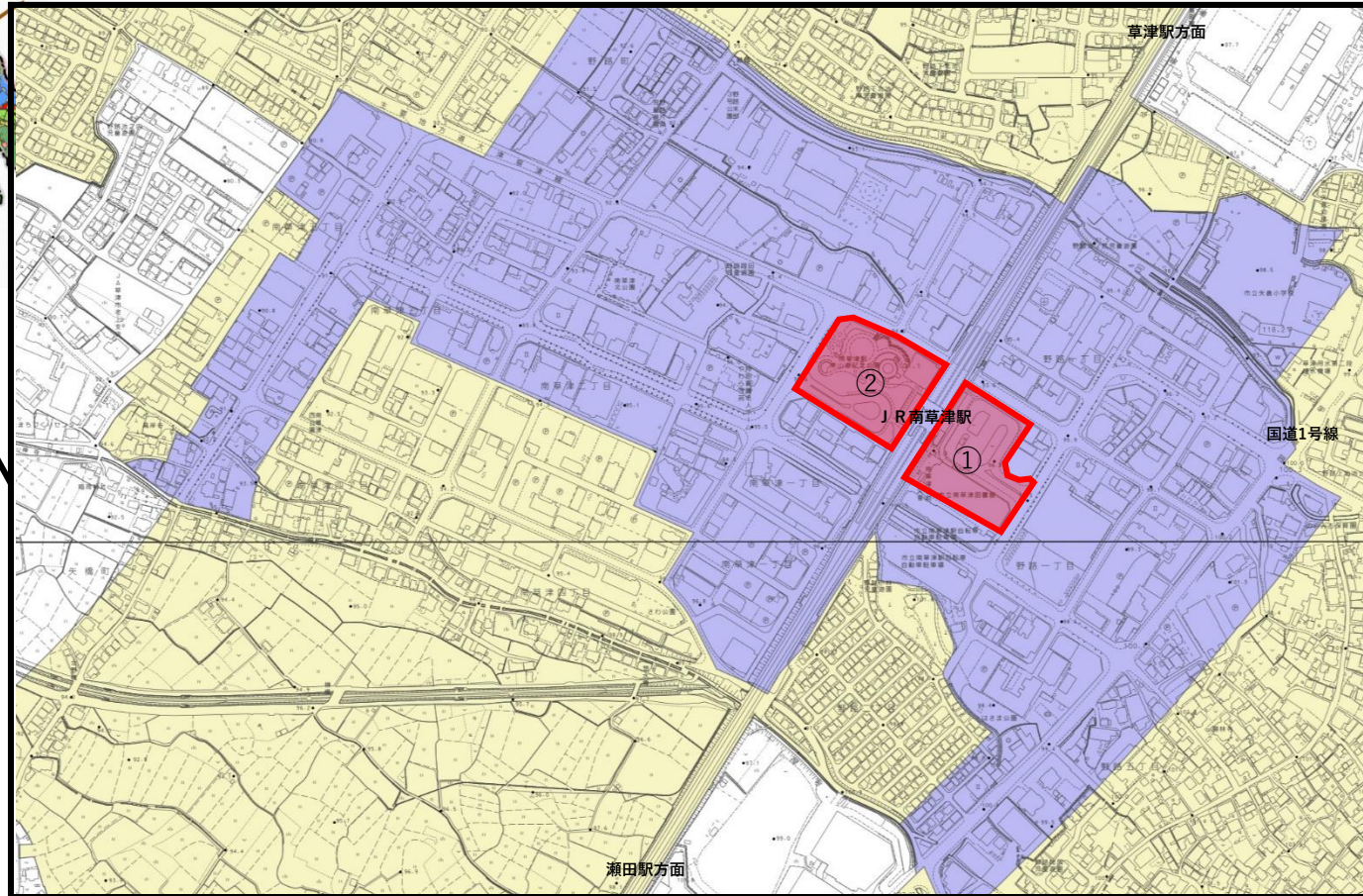


● 令和5年度都市デザインマネジメントスクールにおける主なエリア
(草津市立地適正化計画に定める都市機能誘導区域をおおよそのエリアとする)

○ 令和5年度都市デザインマネジメントスクールにおける重点エリア
(南草津駅周辺の中長期計画に反映させることを目的とするため重点エリアを定める)

重点エリア① J R南草津駅東口エリア
J R南草津駅東口駅前広場およびフェリエ南草津

重点エリア② J R南草津駅西口エリア
J R南草津駅西口駅前広場および南草津駅東山道記念公園



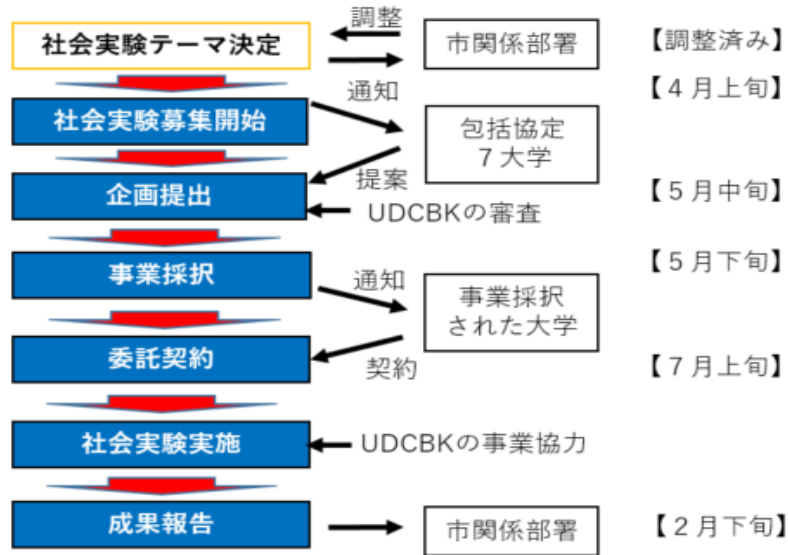
令和5年度事業 社会実験準備事業

実施内容

草津市の課題となっていることをテーマとし、包括協定を締結している7大学から提案を募集する。採択された提案について委託契約を締結しUDCBKと協力しながら社会実験を実施し、社会実験の成果を草津市に還元し、草津市のまちづくりに反映させることを目的に実施する。

- ①テーマに合致した事業であり、全国的な課題ではなく、草津市 特有の課題解決に役立つ事業等であること。
- ②1事業につき上限を100万円とし、予算の範囲内で採択する。

事業イメージ



事業の共通テーマ

本市の南草津エリア特にJR南草津駅周辺は、総合計画において「にぎわい拠点」、都市計画マスタープランにおいて「南部中心核」、立地適正化計画において「都市機能誘導区域」に位置づけられるなど、様々な計画・ビジョンでにぎわいの形成や新たな価値の創出の中心的なエリアであることがうたわれています。

これらの計画やビジョンを推進するため、県内2位の乗降客数（1日当たり平均45,000人を超える）であるJR南草津駅周辺において、魅力ある滞留・交流空間の創出やウォーカブルなまちづくりの推進、交通ネットワークの形成等により、都市空間・交通環境の充実によるにぎわい・魅力のあるまちを目指すことを事業の共通の目標とする。

募集する事業テーマ

No.	テーマ	概要
1	ウォーカブルな健康都市づくり	草津市における交通手段の状況を見ると、徒歩での移動は少なく、また市内移動のような短距離移動であっても自動車を利用する人が多い現状です。自動車の過度な利用を抑制し、健康づくりにつながる徒歩や自転車、あるいは公共交通による移動を増やすことが重要です。『「ウォーカブル推進都市」草津にふさわしい思わず歩きたくなる街路空間づくりやウォーカブルなまちづくりにつながる社会実験計画』を求めます。
2	民間活力を活用した公共空間のにぎわい創出	「南草津エリアまちづくり推進ビジョン」では、JR南草津駅周辺地域をさまざまな都市機能が集積する中心拠点に位置付けており、JR南草津駅は草津駅と並んで滋賀県内の乗降客利用者数トップで、多くの方が利用しています。しかし、周辺住民や駅利用者が駅周辺に滞在することが少なく、駅周辺のにぎわい創出につながっていないと感じています。駅周辺が周辺住民や駅利用者にとって魅力的な公共空間となるよう、「駅周辺にどのような空間が求められているのか（どのような空間であれば滞在したくなるのか）」というニーズの把握を前提とした『民間活力を活用した公共空間のにぎわい創出についての社会実験計画』を求めます。
3	駅周辺の交通環境の改善に向けた、公共交通の利用促進や交通ネットワークの形成	草津市内での交通手段は50%近くが自動車でも多く、次いで自転車が多く利用されています。鉄道やバスといった公共交通は16%程度にとどまっている現状です。こうした状況の中、南草津エリアにおいてはJR南草津駅周辺では交通渋滞が発生しております。JR南草津駅周辺の交通環境の改善を図るため、『公共交通の利用促進や交通ネットワークの形成につながる社会実験計画』を求めます。
4	歩行者や自転車も安心して利用できる環境づくり	草津市内での交通手段は50%近くが自動車でも多く、徒歩と自転車の利用は30%程度となっています。こうした自動車中心の状況から人中心のまちを目指し、歩行者や自転車を利用する人も安心してできる環境づくりが大切です。JR南草津駅周辺においては、南草津エリアの中心として、賑わいや憩いあるいは健康づくりに資する、歩いて暮らせるまちとなるよう、『歩行者や自転車の利用者が安心してできる環境づくりについての社会実験計画』を求めます。